

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月7日

【評価実施概要】

事業所番号	4270300520
法人名	有限会社プロスタ
事業所名	グループホーム心
所在地	長崎県島原市緑町9177-5 (電話) 0957-63-1118

評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年8月22日	評価確定日	平成19年9月12日

【情報提供票より】(H19年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 8 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 5.2 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り
	1階建ての 1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	実費負担 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 79.8 歳	最低 60 歳	最高 89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	柴田長庚堂病院 島原保養院 スマイル歯科 八尾病院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

雄大な山を背景に、自然の変化を感じ近隣の住民と馴染みながら過ごせる当ホームは、太陽光が入るように天窓があり、明るく開放的である。玄関には、花を植えており、居間では、入居者の方々が寛いでおられ家庭的な雰囲気である。居室は、トイレ付きの部屋が二部屋で、一人ひとりの状態に応じてシートを張ったり、椅子を工夫する等、危険を防ぐ取り組みがされている。他に、廊下やトイレなどの要所に手すりを設置してバリアフリーに配慮している。職員は、入居者に寄り添うようにさりげなく、明るく接し尊厳を持ってケアに取り組んでおり、入居者が、遠慮なく言い易い関係を構築して、気ままに過ごせるよう更に、より良いケアを提供できるようにと研修会には積極的に参加されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を活かし改善計画の作成を行っている。改善目標、計画内容に沿って期間を設け、職員が話し合い、取り組んだ経過を評価に表し、ケアの向上と、職員の衛生管理レベルの向上に繋げている。他に2ヶ月に1回発行する広報紙による啓発や地域住民とのイベントを通じての交流等前向きな姿勢で取り組まれている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に対する取り組みについては、記された内容を職員が確認するだけで取り組みの事実について十分理解を示すに至っていない。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議の主な討議内容は、利用者状況や活動報告を行い、出席者の評価と助言が出され有意義に討議されている。運営推進会議を通して、市の介護保険課より消火設備、火災報知機の申請が通り設置決定を早期に知ることができる。又、地域住民のイベントへの参加は好評で認知症ケアの拠点として基盤作りと成りつつある。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	運営推進会議には、家族の代表も参加してもらい意見をサービスに反映してある。又、事務所の窓口に苦情措置の概要文書等明示され目安箱を設けてある。他に、苦情受付処理簿を作成して明記の上、家族の協力を得て納得のいく解決を図れるよう苦情の対応に取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入してホームのイベントに参加してもらい地域との交流に努力されている。又、中学生の職場体験学習の受け入れや、小学校教育友会の廃品回収に参加して親睦を深められている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時の理念を見直し、入居者が気ままに生活していただけるよう居心地の良い環境の整備や、又、本人の気持ちを大切に尊厳を持って、入居者が職員に遠慮なく言い易い関係性の継続と、地域生活の継続を支えていくサービスとして、誰にでもわかりやすく、独自に考えられた理念である。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のサービスの提供に理念が反映できるように、入居者との馴れ合いで職員の言葉使いが乱雑にならないように留意して、職員が理念を常に意識しながら実践できるよう、複数の見やすい場所に理念を明示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事など、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内15班の自治会に加入して、地域との交流に前向きである。中学生の職場体験学習の受け入れや、小学校育友会の廃品回収に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価後、改善点から改善計画シートを作成し全員で日々の介護を確認し合い意識向上に繋げている。しかし、今回の自己評価においては全員での取り組みがされていない。		自己評価に対しては、全職員で分担する等して、最後に項目一つひとつを全職員で点検しながら様々な意見を交わし、総合的結果をまとめられてみる等の取り組みの実施や、又、外部評価の後、これからの具体案等検討して行く中で全職員それぞれの意識向上に繋がり次へとステップアップされ、評価が活かされて行く事に期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回実施され既に、第6回目を終えられている。職員を含め6名で構成された会議である。内容は、活動報告により意見交換され助言・要望にホーム側も会議を反映して前向きに対応されている。		

グループホーム 心

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への出席及び、市役所の介護保険課の展示場所にホームの広報紙を掲示し、イベントの計画について指導を受けるなど連携を取られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の家族の申し出の金額を預り金として、預り証を発行している。金銭出納帳を定期的に明示し報告して、家族の確認印をいただいている。又、利用料等の請求書と一緒に発行時のホームだよりを同封して発送されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議は、家族の代表も参加され意見をサービスに反映している。又、事務所の窓口で苦情措置の概要文書等を明示され箱も設けている。以前、入居者の衣服を間違いトラブルに繋がった際、苦情受付処理簿に明記し、家族に話して理解と協力を得て解決できた事例もある。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、職員の交代は、計画作成担当者1名だけで入居者にとって馴染みの職員が、継続的に存在して介護をしてもらえることは、安心と共に信頼関係が構築されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	限られた職員数の中で、研修に参加することの難しさはあるが、午後7時以降にある研修会には全職員が参加されている。他に、島原半島グループホームケア研究会、介護福祉士会・県南保健所・各病院等の主催する研修会を受講されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島グループホームケア研究会等で相互訪問を通じて、サービスの質の向上に取り組まれている。		

グループホーム 心

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望があれば家族を交えて、ホームへ見学に来て頂き納得を得てからのサービス利用を行っている。入所して馴染むのに時間がかかっても、入居者の個々のペースに合わせ、職員と一緒に買い物・ドライブ等しながら徐々に慣れ親しんでいく事が出来る様工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>訪問時、夏野菜の名前の呼び方が地域で異なる事を入居者から教えて貰い、会話が弾み賑やかであった。職員は、日常生活の中で入居者が人生の先輩であることを忘れず、支え合いながら喜怒哀楽を共にできる様、前向きな姿勢で取り組まれている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者と職員が食事の後、会話をしてお互い頷き、認め合い、ホームで安心なひと時を過ごされていて、一人ひとりの思いや、意向の把握に努められている。入居者の希望で初盆の鐘楼流しに共に出向かれ支援されている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員会議は、月1回実施され又、3ヶ月に1度行われる担当者会議は、その日の状況に応じて - 人でも多くの職員が出席できるように、職員の気づきや意見を出し合い反映した介護計画を作成している。又、利用者主体の暮らしの継続になるような個別具体的な計画になっており、家族の同意も得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画他の記録簿を介護の場に置き、常時記録ができるよう取り組まれている。入居者の状態の変化が無くても、3ヶ月に1度介護計画の見直しを行い次の計画に繋がる様努めている。</p>		

グループホーム 心

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が無理な場合の通院・入院介助・墓参りは、希望に応じ付き添いを行っている。家族がホームでの宿泊の希望があれば食事・寝具の提供も出来、入院時は必要な物の準備をホーム側がされる等、柔軟な支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診に関しては、受診記録ノートを作成している。特別変わった事があれば、家族へ連絡をして記録ノートに日付・連絡した時間・報告内容を書き記し、本人や家族の希望に沿い、適切な医療を受けられる様に支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホーム開設以来、現在に至るまで終末期の事例はないが、平成18年4月1日付で同意書を作成している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーの確保の為に、ホーム全体で言葉掛けには、常日頃から十分に注意されており、個人情報に関する取り扱いにも厳重である。しかし、外部の人に知らせる為の掲示が無い。		他の家族の方や外部からの来訪者にも、個人情報保護を理解して頂くと共に、対策の一つとして秘密保持に関する書式を掲示する事を検討されてみる事が望まれる。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が散歩に出たい時は職員も一緒に共にし、買いたいもの・食べたい物があれば一緒に出掛ける等して、入居者のその日の体調に応じて、その人らしい暮らしの支援が行われている。		

グループホーム 心

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	運営推進会議で高齢者の好む献立を希望と言う助言を反映されている。しかし検査者1名だけ入居者と一緒に食事をして他の職員は、入居者の見守りや介助をして食事のサポートをされている。		入居者の食後の片付けをした後で、職員が食事をされているが、入居者のできることの支援を引き出すための工夫を話し合い、一緒に調理した献立と一緒に味わい楽しく食事ができるように、検討して試行を繰り返した上で成果を期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は1日間隔で、入居者の入浴拒否があれば、別の人に入浴して貰ったり時間をずらしたりして、入居者の希望に沿ってできる限り支援されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	島原半島グループホームケア研究会主催の風船バレー大会に参加し、優勝している。又、日常の生活中で、洗濯物の片付け、新聞たたみ、テーブル拭きなど出来る事の支援をされている。又、入居者の生活歴を職員会議で1人ずつチェックして話題性もち親密度の向上に努めている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏場は候時的に外出の機会を設けることは少ないが、病院の受診や買い物へ出かけるよう支援されてある。又、月1回程度の外食の機会を設けている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵をせずケアに取り組んでいる。入居者が、外に出たい意思で外出されたら、職員が、同行して安全に努め、鍵をかけないケアを把握の上、配慮している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム独自の防火自主点検書を作成しており、各居室に熱探知機を設置して、防火対策に十分な取り組みをされている。又、消防署立会いで避難訓練を実施され避難経路を確認されている。		

グループホーム 心

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に1日の水分摂取量に留意されていて、湯冷ましに砂糖と塩を少量ずつ加え1回に150CC、1日に1000リットルを目安に支援されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は広々としてゆとりがあり、車いす利用可能な使いやすい洗面所や広々としたトイレや浴室に、入居者への配慮を窺がう事ができる。又、床やベッド・椅子など、入居者の安全面に配慮している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭より持ち込みの御仏壇の他に、馴染みの小物等を持ち込まれている。他の居室には、必要に応じてポータブルを設置している。		